



2015年(平成27年) 6月26日(金) (旧暦5月11日) 先負

デーリー東北新聞社 〒031-8601 八戸市城下1丁目3-12 ☎0178-44-5111 ©デーリー東北新聞社2015

# もう一つの学校

八戸あおば高等学院から

さまざまな原因で不登校になった子どもや高校中退者、発達に障害を持つ子どもが無理せず通える場所が、八戸市内にある。現行の学校教育以外の学び場「八戸あおば高等学院」だ。みんなと同じ制服を着て、同じ時間に登校するのが当たり前。子どもにとって「学校」とは何だろうか？ 企画では高校や通信制とはちょっと違う、新しい受け皿の日常を追う。(玉川那津美)

## 不登校、高校中退者の受け皿

### 多様な学び方、育ち方を

「毎日通わなければいけない」のではなく、「毎日通える場所」がある。発想をから

りと変えた切り口から生徒をケアしたいと、2013年10月に青森県教委指定の技能教育施設として八戸あおば高等学院は開校した。高校の商業3科目(ビジネス基礎、ビジネス事務、情報処理)を主に指導するほか、

が大きく変化する中で、学校への普遍的な価値観に疑問を感じていた。「社会の常識とは違う選択肢があった方がいいのではないかと考えた。多様な学び方、育ち方を提供したかった」

あおば高等学院では定期的に通わなくても、レポート、課題の提出、スクーリングと期末テストをパスすれば高校卒業資格を取得できる。

■通える通信制 学校に行かなくても、ならないという義務感、自ら体験した子育ての大変さ…。類家順子学院長は、社会環境



「通える通信制」としてさまざまな境遇の生徒を支援する八戸あおば高等学院。八戸市柏崎2丁目

校章に込められた願い

#### 自分のカラー出して

八戸あおば高等学院の校章は、青葉を表す緑の丸の中に、黄色の「h」と白の「a」を配置。成長や希望を連想させる黄色と、これから生徒が学院で自分の居場所を見つけ、自分のカラーを出してほしいとの願いを込めて白を表現した。

また、hには「八戸」のほか、「Human (人間)」「History (歴史)」, aには「あおば」のほか「Assist (力を貸す)」「Action (行動する)」という意味が含まれている。

「よちよち歩きの双葉の状態から、(学院で)青々とした葉っぱを茂らせて大きな木になってほしい」との思いで類家順子学院長が命名した。(玉川那津美)

■心身をサポート 現在、市内や周辺市町村、青森県外から通う32人が在籍。教職員は、これまで不登校や高校を中退した子どもに携わってきた支援者らで構成する。

時間割は個人に合わせ作成。高校の教員免許を持った4人を中心に国語、数学、英語、体育などの通常授業を月々金曜日に行っている。1時間目が始まるのは午前9時50分から調べる。

この企画への意見をお待ちしております。取材をお願いする場合がありますので、連絡先を添えてください。断りなく氏名などを紙面に掲載することはありません。宛先は、〒031-8601 (住所不要) デーリー東北報道部「あおば学院取材班」。ファクスは0178(45)5900、電子メールアドレスはaoba@daily-tohoku.co.jp

子どもも育む

毎週金曜日に掲載